

第1回長瀨町地域創生推進会議 摘録

会 議 名	第1回長瀨町地域創生推進会議	
日 時	平成27年7月29日（水） 午前2時から	
場 所	長瀨町役場 3階会議室	
出席者氏名	委 員	新井利朗委員、染野益代委員、板谷定美委員、村山勝委員、大澤優巳委員、高橋英之委員、齋藤慶子委員、外池秀彦委員、前田千恵子委員、五十嵐元克委員、小暮俊明委員（代理）、福田馨委員、鷹啄泰則委員、近藤ヨウ子委員、眞壁恵一郎委員、市川健一委員
	オブザーバー	埼玉県秩父地域振興センター所長 檜田義之氏
	事務局	平健司副町長 企画財政課 齋藤英夫課長、中畝康雄主幹、長島大悟主事 計画策定業務委託業者（株）ジャパンインターナショナル総合研究所
欠席者氏名	豊田世津夫委員、新井孝彦委員	
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状交付 3 自己紹介 4 町長あいさつ 5 会長及び副会長の専任について 6 議題 <ol style="list-style-type: none"> 1) まち・ひと・しごと創生事業の概要説明 2) スケジュール 3) 長瀨町人口分析について 4) アンケート調査実施について 5) 地方創生に係る事業提案について 6) その他 7 閉会 	
資 料	資料1 まち・ひと・しごと創生事業の概要 資料1-1 長瀨町まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本方針 資料1-2 長瀨町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定体制 消滅市町村 資料2 スケジュール 資料3 長瀨町の人口動態の現状と将来推計 資料4 アンケート調査様式 資料5 長瀨町創生に係る提案一覧 資料6 長瀨町地域創生推進会議設置要綱	
議 事 内 容	次ページ以降の通り	

議 事

1 開会

(資料の確認)

2 委嘱状交付

(委嘱状の交付)

3 自己紹介

(各委員による自己紹介)

4 町長あいさつ

(大澤タキ江町長によるあいさつ)

5 会長及び副会長の専任について

(事務局一任により会長に五十嵐委員、副会長に外池委員を選出)

6 議題

1) まち・ひと・しごと創生事業の概要説明

会 長 : 事務局より説明をお願いします。

事 務 局 : (資料1、1-1、1-2に基づいた説明)

会 長 : 今、事務局より基本方針、体制、概要の説明がありましたが、ご質問はございますでしょうか。

委 員 : 確認したいことがあります。この事業はわりと大規模なものを想定しているのでしょうか。島根県の創生事業などを調べたが、身の丈にあったものを実施していく印象を受けました。国の方針に基づいて、ということですが、どれぐらいのものをやっていくとお考えでしょうか。

事 務 局 : まだ、実施していく事業は決まっておられません。大小はありますが、5年間の中で優先的に実施していくかを決めていきます。町としても財政は豊かな方ではありませんし、補助金もどこまでもらえるかもまだわかりませんので、うまく国、県と調整しながら決めていきたいです。先進的な事例であれば補助金がいただけるということですが、そうでなければ難しいので、町として提案しても補助金が下りない場合がある。大きな事業でも補助金が下りれば実施することが可能です。現在の段階では何を位置付けるかは未定ですが、これから会議で提案していきますので、審議していただければと思います。事業の大小はあまり考えておりません。

会 長 : ただ今の説明の通り、事業の審議はこれからということよろしいでしょうか。

委 員 : はい。

会 長 : 他に何かございますか。

委 員 : 国からのトップダウンということで、補助金ありきの事業なののでしょうか、また、補助金がなくてもやっていかなければいけない事業なののでしょうか。補助金がつかなけ

れば実施しない事業なののでしょうか。もう一点、本部で策定したものを推進会議でかけるということで、本部でほぼ作りあげられたものを推進会議で審議すること自体歯がゆさを感じますが、いかがでしょうか。

事務局：補助金がつかなければやらないのではなく、つかなくてもやっていかなければいけないことは我々も認識しています。ただ、先ほども申し上げましたとおり、現在の町の一般会計予算では大きな事業が実施できない現状があります。総合戦略の中にはすべてが新規事業だけでなく、既存の事業も入れていくことができます。人口減少の抑制であれば、すでに実施している事業に加え、新たな事業を提案していき、それを補助金で実施していきたいと考えています。戦略に掲載しないと補助金の対象になりませんので、該当するものはすべて入れ込んでいく予定です。また、二点目についてですが、本部で作成した素案がよいか悪いかを含めて検討していただきたい。たとえばこの事業は必要ない、こういった事業を入れた方がよいという意見もいただきまして、本部で再度検討していきたいと思います。いただいた意見で実施が可能なものであれば、積極的に実施していきたいと思いま。また、補助金についても再来年度以降の見通しが不明確で、尻すぼみになってしまうことが懸念されますが。まずは町としてはこう考えているという案をお示ししますので、それについて各分野のみなさまからご意見をいただきたいと思います。素案は本部で作成はしますが、その素案がそのまま決まるということではございません。

総合振興計画は町全体の事業を定める計画ですが、総合戦略はその一部に着目して定めるものになります。事業については、補助金がないと難しいという認識をしています。

委員：補助金もそうですが、長瀬町でできるものは少ないと思います。秩父郡市で一体にならないと難しいと思います。秩父郡市一体となって考えたときに町としてどう対応するかが必要になるのではないのでしょうか。

事務局：今県のほうでも、秩父郡市での連絡会議を実施しています。定住自立圏など、連携できるところはやっていくことも考えています。ただ、町としての特性を活かして作っていく部分でもありますので、例えば長瀬町では観光振興を中心にすることも考えています。国の方でも地域と地域を連携するという考え方もありますので、秩父郡市で連携するところもありながら、各市町村が同じものを作るのではなく、町の特性を活かした戦略を考えて進んでいきたいと考えています。

委員：長瀬町独自でやる事業は補助金が町に下りるといえるのでしょうか。

事務局：町単体で下りるものになります。単独でやる場合も町のお金を使うことになります。

会長：棲み分けが難しいですが、町でやっていくものと連携するもので、今後連携してほしいと思います。

委員：超高齢化社会ということで、長瀬町での現状がどうなっているかを教えていただきたいです。

事務局：のちほど人口動態の現状について説明させていただきます。人口分析については、たたき台になりますので、今後人口ビジョンを策定していく中で、お示しさせていただきますと思います。

委員：15年ほど前から介護事業が花形産業だと感じていたので、今後も活かすことができないのでしょうか。

会長：今後事業が提案されるなかで、ご意見としていただきたいと思います。

委員：人口が減少していく中で、市町村で人口の取り合いになりますよね。そのうえで、独自性を出していくことが難しいと思います。長瀬町は観光が主要であります、今回

の会議には町内で事業している鉄道会社の方や観光協会の方がいらっしゃるので、そういった方から町が発展していくためのご提案をいただければいいと思います。

- 会 長 : ご意見ということでいただきました。他に何かありますでしょうか。
- 委 員 : 事務局から観光振興の話が出ました。宝登山ロープウェイの売店の脇に立ち食い蕎麦が移転したりしています。ロープウェイの運営だけでなく、観光振興に向けた取り組みをしていただければと思います。長瀨町は昔から観光で食ってきましたが、より振興していくのもなかなか難しいと思います。
- また、部品等の製造業の支援の在り方を検討していただきたいと思います。

会 長 : 細かい取り組みについては、今後の会議の中でも出てくるとと思います。そこでより詳しい意見をいただきたいと思います。

委 員 : 本部の委員の組織構成を教えてください。

事 務 局 : 役場内の組織で、町長をトップにしながら、各課長級の職員で構成されるものになります。

会 長 : 今回オブザーバーとして、秩父地域振興センター所長の檜田氏にきていただいているが、県と町の総合戦略の違い等についてお話いただきたいと思います。

オブザーバー : 県の方は、スケジュールとして12月議会に説明できるよう、年内に素案を作成できるよう進めています。ただ、埼玉県は東京圏ということで、人口がまだ増えているところですが、課題としては、高齢化が進む段階の世代の対応が主となってきますので、町の課題と必ずしも一致しないところがあります。また、話にあった雇用の問題も考えていかなければいけないところですが、そちらは県の進捗状況も含めて都度報告させていただきます。また、秩父郡市の連携についてお話がありましたが、我々が事務局となって商工会などに入らせていただきながら、意見交換をしています。そこでよい意見が出てくればと思います。たとえば長瀨はハイキングが盛んになってきましたが、地域にお金をどう落としていくかが重要となります。それを長瀨町でやっていくのか、皆野町などと連携してやっていくのかを聞いていく必要もあるかと思います。

また、この地方創生の話が出てきたときに、埼玉県ではこの秩父地域が積極的に取り組んでいかなければいけないものであると感じています。というのも、埼玉県全体ではまだ人口は増加傾向にあり、人口減少危機感が薄い印象があります。今後無居住地域が出てくるとも懸念されるなかで、長瀨町ではとしてどうしていくかが、資料5のようなところで委員の皆さんから出てくるとよいのでしょうか。

会 長 : 以上で議題1を終わりたいと思います。続いて議題2についてお願いいたします。

2) スケジュール

事 務 局 : (資料2に基づいた説明)

会 長 : 今、事務局よりスケジュールの説明がありましたが、ご質問はございますでしょうか。

委 員 : アンケート調査の内容について、委員の方々から意見を聞いていただきたいです。アンケートと同様かそれに準じた意見を吸い上げていただきたいと思います。

委 員 : それはアンケートの結果が出てからでもないのではないのでしょうか。

会 長 : これからアンケートについての説明もありますので、それを踏まえて改めて意見を出していただければと思います。

それでは議題3についてお願いいたします。

3) 長瀬町人口分析について

事務局：（資料3に基づいた説明）

会長：今、事務局より人口の分析について説明がありました。自然増減、社会増減ともに減少している現状があります。若者の流出が激しいなかで、合計特殊出生率を上乗せしても難しい現状があります。ご質問はございますでしょうか。

委員：10ページの表についてあまりにも偏っている傾向があります。差がつくものなのでしょうか。

事務局：数字的なものでして、シミュレーション1とシミュレーション2の結果の比率をもとに算出したもので、結果としてこうなっている状況です。

委員：他の市町村と比較しても、あまり意味がない印象があります。参考にならないのでしょうか。もっと長瀬町に似た自治体と比較した方が参考になるのではないのでしょうか。

事務局：県内の自治体で算出したものになります。県外の人口構造や産業構造が類似した自治体で比較することもできますので、改めて比較の結果を出していきたいと思えます。

委員：この結果をどう反映させていったらいいかがよくわからないのですがいかがでしょうか。

事務局：例えば、自然増減の影響度が社会増減の影響度が上回る自治体は、自然増減に関わる施策に積極的に取り組んでいった方が効果的であるということが出来ます。要は、今後の人口の推移が自然増減に影響するのか、社会増減に影響するのかを雑駁に示したものになります。

会長：確かにこの図は難しいところがあります。自然増減と社会増減は分けて示した方が効果的だと思います。

委員：この図にとらわれ過ぎてしまって、施策を考えることも危険なので、あくまで参考ということにとらえていただいた方がいいのではないのでしょうか。

委員：過去のことでありますが平成16年だけ出生率が大きく上昇していますが、何か原因があるのでしょうか。あれば、それを活かしていければいいと思えます。

事務局：これから分析をしていく中で調べさせていただきます。

会長：他にないようですので、それでは議題4についてお願いいたします。

4) アンケート調査実施について

事務局：（資料4に基づいた説明）

会長：今、事務局より説明がありました。何かご質問はございますでしょうか。

委員：このアンケートの対象はどうなりますでしょうか。

事務局：16～39歳の800人となります。また、これとは別に40歳以上の年代2,200人に総合振興計画の部分をお聞きする形で配布します。計3,000人に配布します。

委員：別の課でアンケートを実施したということですが、そちらの結果は反映させるのでしょうか。

事務局：確認させていただきます。結果については、可能であればお示しさせていただきます。

会長：他にないようですので、それでは議題5についてお願いいたします。

5) 地方創生に係る事業提案について

事務局：（資料5に基づいた説明）

委員：具体的な提案についてはこの会議であるのか、事前に企画財政課の方へ連絡するのかわかりませんか。

事務局：議事録と合わせて事業提案できる用紙を添付しますので、お送りいただければと思います。アンケートも併せて送付しますので、そちらもお答えいただければと思います。

会長：事務局から提案があった通り、皆さまのご協力をお願いしたいと思います。その他で何かありましたらお願いします。

6) その他

事務局：次回の会議につきましては、9月29日前後で調整させていただきたいと思います。また、通知をさせていただきます。

会長：改めて事務局から連絡がありますので、皆さまの参加をお願いしたいと思います。

7 閉会

(終了)